あかつき

小田原市議会議員
加藤仁司市政報告　R6初夏号
〒256-0803　小田原市中村原400
TEL 0465-43-0628
URL/https://katochan.info/
E-mail uin39360@nifty.com

防災特集　3月定例会＋提案

小田原市議会３月定例会において、会派誠和を代表して質問を行いました。質問項目は多数ありますが、今年1月1日に発生した能登半島地震の事もあり、今回は防災についての意見を特集します。

防災＝広域避難所の話ばかりでいいの？

災害時における広域避難所の設置は水害や火災、家屋倒壊等の被災者にとれば衣食住の命綱でもあります。自治体及び自治会は広域避難所の設営及び運営に以前から力を注いでいます。そして防災訓練も基本的には各地域より集団で移動して広域避難所にて炊き出しや救急措置訓練などを実施してきました。

私は従来より、大規模災害発生時には、家屋の倒壊や火災がなければできる限り**自宅から離れない場所での避難（在宅避難）**を推奨してきました。敷地に余裕があれば敷地内にテントや車庫を利用するなどして復旧復興を目指すべきだと思っています。

阪神淡路大震災、東日本大震災をはじめ、今年1月1日に発生した能登半島地震の際も、家屋の崩壊や津波で家屋流出された方々は、当然避難所での過酷な生活を送らなければならない状況であったと思います。しかしながら、家屋倒壊などの甚大な被害を受けなかった方々の発災後の様子についてはメディアでもあまり語られていません。

そこで、以下４つの事柄について提案いたします。

１．避難訓練時の心得
２．自主防災組織編成の見直し
３．火事場泥棒対策の必要性
４．物資搬送班の編成

１．避　難　訓　練　の　心　得

毎年各地区で開催されている防災訓練。広域避難所での消火訓練や応急救護訓練については、発災時に有効な手立てとして習得する必要性を感じます。ただ、何故広域避難所で行うのか。その防災訓練は災害発生時の避難訓練も包括しているからではないのでしょうか。倒壊家屋や火災で避難される方は広域避難所に身を寄せるでしょう。場合によっては避難所で一定期間生活を強いられる事も考えられます。その時に着の身着のままで向かうのでしょうか。

多くの方々が非常持ち出し袋やリュック等に食料や防災用品を詰め込んでいると思います。しかし、それを広域避難所に運ぶシュミレーションをされているのでしょうか。広域避難所まで遠くてとても運べない。かさばる。重い。等、実際に避難所まで運ぶことが出来るのか否か、防災訓練時に敢えて用意している**防災リュックを持ち出す避難訓練も行う**ことを提案いたします。

※裏面に続きます。

２．自主防災組織編成の見直し

各自治会では自主防災組織が編成されています。しかしながらこの組織表については全てを把握しているわけではありませんが、おおむね同じ様式で作成されており、毎年の役員改選時に各班長に新組長を充てているのが現状ではないでしょうか。「餅は餅屋」ということわざがあります。形骸化している自主防災組織図よりも、かつて医療従事者だった方には医療班長を、元消防団経験者には消火班長等、**経験者に永年委嘱**をお願いすべきです。

３．火事場泥棒対策の必要性

私が発災から3日経た新潟県中越沖地震後の柏崎市にて遭遇したのは、カメラを片手に取材やボランティアに扮した俗にいう**火事場泥棒**でした。既に応急危険度判定士により、玄関先に赤（危険）黄（要注意）緑（調査済）の札が掲げられており、当然赤札の家屋には人影もない状況でした。地元では急ごしらえの自警団を組織し、夜間から明け方にかけて毎日見回りをしているとの事。治安の良い日本ですらこのような状況です。

皆様の大切な財産を守るためにも自宅の近接地や車での避難を先ず第一に考えるべきであり、発災時には皆が広域避難所に集まると言った誤った考えを払拭させなければなりません。自分たちの財産を守る意味においても、先の自主防災組織に**「防犯対策班」**を加えるべきと考えます。

４．避難所から各戸への物資の搬送班の編成

さらに、当然発災後は飲食や衣類に困ることもあるでしょう。だからこそ、最低三日間の家族分の食料飲料水の確保が重要です。

発災後、復興復旧のための物資は数日後には広域避難所に届くものと推察します。そこで、自治会は組毎に人員把握に努め、その分配作業に入る筈です。組内の何人が避難所に何人が自宅その他に避難しているかを把握した上で物資の分配となります。

そこで、自治会の中に**「物資配送班」**を事前に設置すべきと考えます。現行では物資を各人が広域避難所に取りに行く形しか想定していません。道路の寸断や瓦礫の存在など想定外の状況も予測されますが、個々避難や或いは在宅にて救援物資を待っている方々に物資を運ぶ方々の存在は必要であり、普段から配送ルートを考えておくなど防災意識の啓発にも期待ができると思います。

あとがき

今回提案した4つの事柄は、一般質問やこの「あかつき」でも何度か掲載したこともあり、重複しているものもあります。地震の頻発する日本列島。いつ起きるかわからない災害に備えることは、大きな地震が起きるたびに防災グッズが飛ぶように売れる事からも多くの方々が自覚しているものと思われます。せっかく用意した防災持ち出しバッグが散乱した家財や割れた食器等で取り出せない事もあります。私は2日分ほどの衣類や飲食物を車のトランクと自宅のコンテナに分けて保管しています。皆様もイザという場合を想定しての保管場所の検討をおすすめします。

【加藤仁司プロフィール】
昭和36年10月小田原市生まれ　中村原在住
下中幼、下中小、橘中学校、神奈川県立足柄高校卒業（第一期生）
東海大学教養学部卒業　自民党衆議院議員故亀井善之秘書（10年７ケ月勤務）
平成７年小田原市議会議員初当選（33歳）当選８回小田原市議会59代･62代議長
橘北地区青少年健全育成会相談役　自主防犯団体橘ブルーアイズ隊長